

広島市平和学習

Day1 7月30日(水)

□ピースパークツアー

ガイドの解説を聞いたり対話をしたりしながら、平和記念公園の見学をしました。見学後はガイドと感想を共有し、平和への想いを新たにしました。

□おりづるタワー

被爆後から現在に至る街並みの変遷を学ぶとともに、平和への願いを込めて折り鶴を折りました。

Day2 7月31日(木)

□広島平和記念資料館

原爆がもたらした被害の実態を学びました。

□被爆体験者講話

原爆の被害に遭われた方の講話を聞きました。

□「平和の灯」分火

「平和の灯モニュメント」に点火する火を、広島市の「平和の灯」から分けていただきました。

広島市平和学習に参加した中学生

市内全中学校から希望者を募集し、各校1名(一部2名)の計16名に参加してもらいました。



平和の灯(広島市)

原爆による犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するために建てられました。昭和39年8月1日に火が灯されて以来、「核兵器が地球上から姿を消す日」まで燃え続けます。



特集

「平和の灯」、広島から上田へ
中学生がつなぐ平和への想い



令和7年は戦後80年の大きな節目の年であり、市が「争いのない世界を願う 非核平和都市宣言」を行ってから15周年を迎えます。

この節目の年に、平和への想いを未来へつないでいくため、「平和の灯モニュメント」を設置しました。このモニュメントには、広島市の「平和の灯」と長崎市の「誓いの火」から分けていただいた、尊い火が灯されています。

広島市では、将来を担う中学生が現地で分火してきました。今号では、中学生の広島市での学びと体験をお伝えします。この機会に、「平和」について改めて考えてみませんか。

図 人権共生課 ☎23・5393



特集の内容は動画でも
ご覧いただけます



平和への想いを未来へ 平和の灯モニュメントを設置

モニュメントのデザインは、応募総数約600点の中から選考を行い、上田千曲高校1年(当時)神野さんの作品を採用しました。デザインコンセプトは「みんな手をつないでいれば武器を持つ手がなく、みんな平和」。

市役所本庁舎駐車場に設置していますので、ぜひご覧ください。

- ①点火式(8月1日)
広島市と長崎市から分けていただいた火を、平和の灯モニュメントに灯しました。
- ②除幕式(8月8日)
広島市を訪問した中学生にも参加いただき、モニュメントの除幕を行いました。
- ③モニュメントのデザイン
手をつないでいれば、武器を持つ手がなくなることを表現しています。



上田市「平和の灯 モニュメント」完成除幕式

令和7年8月8日



除幕の様子は
動画でも
ご覧いただけます



過去の悲惨な歴史を繰り返さないためには、正しい歴史を知ることが大切です。ピースパークツアーや広島平和記念資料館の見学をとおして、中学生は何を思ったのでしょうか。

平和への想いを未来へつないでいくため、「平和の灯」の尊い火を分火しました。



柳澤さん

公園全体が被爆者のお墓

広島に来る前は、がれきを全て片付けてから復興したと思っていました。しかし、ピースパークツアーで「ある程度の遺骨は収集したが、その上に砂をかけて復興したため、地面の下にはまだ眠っている人がいるかもしれない。公園全体が被爆者のお墓」という話を聞き、明るい気持ちで歩くというよりも「歩かせてもらいます」という気持ちで訪れる場所だと思いました。



平和について訴えていきたい

福嶋さん

核兵器は恐ろしいということが一番よく分かりました。物理的なダメージだけでなく、人々の精神も壊し、家族の絆も引き裂く恐ろしいものだと感じました。今、世界に一番大切なことは、「戦争をしない」「核兵器を使わない」ことです。そのためには、もっと核兵器の惨状や恐ろしさを発信して、平和について訴えていく活動が大切だと思いました。



核兵器を無くす努力をしていきたい

中村さん

「平和の灯」は思っていた以上に火が強く、亡くなった方の「核兵器を無くしてほしい」という想いが伝わってきました。今回学んだことを少しでも多くの人に伝えて、この世から核兵器を無くす努力をしていきたいと思います。



伝える

学んだことを伝えていきたい

正木さん

核兵器の脅威と教訓について深く学びたいと思い、平和学習に参加しました。被爆者の方のお話を伺うことができたのは、とても貴重な経験でした。当時何が起き、どのような思いだったのかを知ることができたので、私のできることから次世代へ伝えていきたいと思っています。



自分のできることを探求していきたい

森川さん

「復興」とは、都市の活気を取り戻すだけではなく、平和資料館などを整備し、核兵器廃絶や平和を願う拠点としてあり続けること、次世代へと語り継いでいくことだと思いました。被爆者の方から、「戦争と平和について考え、自分のできることから始める」という言葉をいただきました。私も、自分のできることを探求していきたいです。



私たちが平和への想いを語り継いでいきたい

上田さん

平和学習をとおして、戦争や核兵器の悲惨さがよく分かりました。当時の体験を語れる人が年々少なくなっていますが、私たちがその想いを語り継ぐことで、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の大切さが忘れられることは無いと思います。「核兵器廃絶」「恒久平和の実現」に近づけるため、今回学んだことを周囲に伝えていきたいです。



平和への想いを広めていってほしい

丸子中学校校長 小山さん

事前学習や広島市訪問をとおして、中学生が核兵器廃絶と恒久平和を願う「平和の使者」として、立派に成長していることを強く感じました。今回の学びを胸に、一人一人が平和への想いを広めていくことを期待しています。



上田市誕生20周年記念 非核平和都市宣言15周年記念



上田市平和祈念事業

～音楽と映像がつむぐ平和への願い～

令和7年は、戦後80年と上田市「非核平和都市宣言」15周年の節目にあたります。この節目にあわせ、広島から「被爆ピアノ」で平和音楽活動を展開される矢川光則氏と、上田市出身のコカリナ奏者・黒坂黒太郎氏らをお招きした平和祈念事業を開催します。

日時 12月21日(日) 13:30～17:05(開場 13:00～)
場所 上田文化会館 ホール
料金 無料

定員 500名
申込 不要

ホワイエで「平和の灯モニュメントデザイン」応募作品を展示します。



市ホームページ